

第2回 世田谷区本庁舎等における区民利用・交流拠点施設 事業運営委員会 みどり部会			
開催日時	令和8年7月13日（月） 午後6時30分 ～午後8時30分		場所 世田谷サービス公社 本社
出席委員 （敬称略、五十音順）	委員	中間支援組織	荒井委員、松本委員
		区内活動団体	大坪委員
		学生（若者）	堀委員、松澤委員
		行政	伊藤委員、笠原委員、北村委員
欠席委員	湧口委員		
事務局	市民活動推進課		榎本係長、杉藤
	運営事業者		上遠野施設長、本田副施設長、福永 栗本、佐藤、森下、安木、山下、松下
議題	（1）報告案件 ①開設までのスケジュール及び部会での主な議題について ②実行委員会キックオフ開催及び企画委員会の報告 ③交流スペースレイアウト（相談カウンター）及び区民参加による家具作り ④R9年度市民活動フェアの企画検討状況 （2）審議案件 ①オープニングイベント（みどり活動）の企画（参画）検討 ②屋上庭園等の区民参加事業について （3）次回の日程等		

(1) 報告案件

①開設までのスケジュール及び部会での主な議題について【資料2-1】

本田副施設長から、区民利用・交流拠点施設開設までのスケジュール及び部会での主な議案について説明を行い、以下の通り全委員で認識を共有した。

1. 各委員会日程について、7月17日（金）第2回区民活動・交流部会及び文化・芸術部会、8月6日（木）第2回事業運営委員会が開催予定。

2. 第1回区民活動・交流部会及び文化・芸術部会開催報告【資料2-2】

○開催日：5月12日（火）18：30～20：30

○審議案件に対する委員からの主な意見：

- ・汽水域の外側の人をどのように巻き込むか不明瞭。
- ・交流拠点施設の利用イメージが湧かない。

○委員からの要望：

- ・交流拠点施設を利用している様子を見学したい。
- ・施設オープン後に見学ツアーを実施してほしい。

○意見交換から出た課題：

- ・交流拠点施設の利用意向のある地域及び年代が限定的になってしまうのではないか。
- ・21日間の大規模イベント実施にあたり各団体のイベント対応人員確保や広報が課題。

○利用憲章（案）について：

- ・検討背景の確認や決定方法に関して提案があった。

②実行委員会キックオフ開催及び企画委員会の報告【資料3】

本田副施設長より6月10日に実行委員会が発足されたことと、7月15日に第2回実行委員会が開催されることを報告。以下の事項が実行委員会にて提案及び決定された。

○実行委員からの主な意見・提案

・様々な人に来てもらうため、17時以降退勤した区の職員にも積極的に参加してもらいたい。

- ・繋がりを作るために、オープニングイベントのタイトルやキャッチコピーを作る。
- ・世田谷区での考案企画として、区民参加のマルシェのシェード作成と家具作りを提案。

○決定事項

・6月10日第1回実行委員会では、委員長をはじめとする企画委員の決定、情報共有ツールとしてS l a c kを導入することが決定。

- ・7月15日に第2回実行委員会が開催

③交流スペースレイアウト（相談カウンター）及び区民参加による家具作り

ア. 交流スペースレイアウト（市民活動相談カウンター）【資料4】

事業運営スタッフ及びマッチングコーディネーターが常駐する市民活動相談カウンターについて市民活動推進課榎本係長より説明した。

- ・2月準備会でレイアウト案を示した際、スタッフと単純に正対する形はあまり好ましくないと意見を踏まえ、カーブをかけたカウンターに設計変更。隣同士でも会話が出来るようなスタイルとする。

イ．区民参加による家具作り

官民連携担当課から民間事業者と連携し、広場等で使用する家具を区民参加で作る取組について伊藤委員より説明。

- ・広場に日常的に設置する椅子やテーブル、イベント時にマルシェ等で使用できる屋台などの家具を区民参加で制作。
- ・家具の材料については、区内から出る端材等を活用予定。
- ・家具を設置することで施設の魅力向上につながり、日常的に人が滞留する仕掛けを目指す。
- ・区民参加で家具を一緒に作ることは交流拠点施設のコンセプトともマッチ。
- ・家具の設置にあたっては、庁舎としての安全管理や日常の運営方法等、様々な課題もあるため、これから関係所管と調整予定。

④R 9年度市民活動フェアの企画検討状況

本田副施設長より、来年度の市民活動フェアについて、交流拠点施設未オープンのためまず区と事業者で対応方針を検討し、その結果を部会に示して今後の検討課題とする旨を提案。提案内容について部会内で了承された。

○伊藤委員による市民活動フェアに関する追加説明

- ・市民活動フェアは必ずしも年1回実施することが目的ではなく、施設運営をする中で改善が必要な時に旗印になるイベントを目標にし、ネットワークを広げていく際に活用可能なイベントである。
- ・イベント開催規模や時期、ターゲット、開催目標もまだあえて決定していない柔軟な形としている。

●区民利用・交流拠点施設において目指す方向性について

前回の部会で委員より指摘があった屋上庭園やオープニングイベントを検討するにあたり、交流拠点施設として何を目指していくのか、ビジョンについて伊藤委員より説明。

○区民利用・交流拠点施設が目指すビジョン

- ・区民利用・交流拠点施設は、市民団体、地域、区が小さな実践を通じて活動や課題等を可視化し、結果として外部に共有される実践拠点。
- ・施設に集まった人が自然に市民活動に接続していくための工夫の場でもあるため、区内の活動団体にとってもそのような施設となることを目指す。
- ・普段市民活動に関わっていない人にも市民活動に接続してもらえる場を目指す。
- ・活動団体のスタートアップ・バージョンアップ支援をする場所。
- ・オープニングイベントや集客イベントで集まった人々が様々な活動に触発され、活動を知ったり活動に参加する人が増えたり、活動が新たに始まったり、ネットワークが築けたりするような、活動の活性化を目指している。

(2) 審議案件

本田副施設長、マッチングコーディネーター福永氏から説明を行い、各審議案件について委員と意見交換を実施した。

審議①：オープニングイベント（みどり活動）の企画（参画）検討【資料6-1、6-2、6-3】

○大坪委員からオープニングイベントに関して3つ提案【資料6-4】

(1) 世田谷落ち葉ひろいりレー2026@世田谷区本庁舎

本庁舎を会場とした、官民協働の催しである世田谷落ち葉ひろいりレーを実施。

(2) グリーンアップサイクル・プランターの広場設置イベント

衣料などの廃棄物をアップサイクルした素材を用いた大型プランターを広場に設置。

現実的にどの程度まで配置できるのかが課題。第一歩として小規模開始することも可能。

(3) 区のみどり関連事業紹介イベント

世田谷区の様々なみどり関連事業に関して、事業紹介だけではなく、現状を踏まえた上で市民参加のみどりの保全・創出事業のアイデアを出せる機会の提供。

○提案に対する委員からの主な意見及び提案・意見交換から出た課題は以下の通り。

1. 意見及び提案

①世田谷落ち葉ひろいりレー

- ・11月3日のオープニング日での提案があったが、ケヤキの落ち葉が少ない可能性があるため、11月下旬での開催が望ましい。
- ・本庁舎周辺を会場とするのであれば、東側バス停沿いがケヤキの落ち葉が多い。
- ・会場規模を拡大するのであれば本庁舎西側の国士舘大学から下ってくる道沿いでも落ち葉拾いが可能。

②グリーンアップサイクル・プランター設置イベント

- ・プランター設置について、渋谷区の笹塚・幡ヶ谷・初台の緑道沿いで区民参加によるみどり育成の取り組み事例があるため、現地視察を行ってはどうか。
- ・車いすの方が作業できる高さのプランターであるため、車いすの方も花植えイベントに参加してもらえる。
- ・プランターをどこに設置するのか、また設置後は誰が管理をするのか。
- ・中庭にプランターを設置した場合、広場全体を使うイベント時には別の場所に移設する必要があるため、移動の効率性を考える必要性がある。

③区のみどり関連事業紹介イベント

- ・「せたがや生きもの会議」と連携し、区内のみどり保全活動に取り組んでいる団体の活動紹介ブースを設けたい。
- ・紹介ブースにはパネル展示や、可能であれば各団体に説明に立ってもらい、活動を知り、新たな担い手の発掘につなげる。
- ・トラストまちづくりでは、みどり保全系のボランティア団体が多数あり、「生きもの会議」と連携しブースを出すことで、ボランティア活動の募集も併せて行える。

2. その他意見

- ・ボランティアに関して、大学生向けアンケートでは福祉、イベント参加、環境保全（ごみ拾い）などに興味を持つ学生がいる。
- ・みどりに関心の薄い層を巻き込むには、イベントとしての盛り上がり、キャッチーな面白さや分かりやすさが必要。
- ・若年層にとって人との関わりが大切であり、1人で黙々と作業するよりも大人数で共通の目的に取り込む体験が魅力的に感じる。ボラインティアへの使命感と楽しさ、経験という価値提供が重要。
- ・長くボランティア活動に関わってもらうためには、楽しさややりがい、達成感が必要であり、魅力的なプログラムをコーディネートすることが大切。
- ・ボランティアとして意識させず、自分が楽しめることが結果としてボランティアであったという方が好印象。
- ・国土舘大学教員へ交流拠点施設について相談したところ、施設内への家具設置は人が滞留する仕組みの一例であることが判明。
- ・学生ボランティア協会（IVUSA）との連携の可能性があり、市民活動団体が主体的に活動する中で関わることを望ましいとの考えが示された。
- ・人には得意不得意があるので、どこに募集をかけるかで参加する対象が変わる。

3. 意見交換で出た課題

- ・プランター管理における、日常管理の担い手確保の在り方。

審議②：屋上庭園等の区民参加事業について【資料7】

R7年度に実施したワークショップについて、北村委員より説明。各ワークショップは多くが親子連れで、定員を超す参加の回もあった。ワークショップで作成した花紹介カードは、交流拠点オープン後に屋上庭園へ行くルートで飾る予定となっている。午後開催の「庁舎の木を活かすワークショップ」では、以前のワークショップで作成した植栽ユニットや、庁舎の木で作成した家具のメンテナンスをおこなった。

区民花壇の花植えイベントについて、大坪委員より北烏山5丁目広場をベンチマーク事例として説明し、屋上庭園の植え付けイベント提案を説明。

○北烏山5丁目広場の花寄せについて

- ・広場開園に先立ち、地元住民中心にコミュニティガーデン活動の参加者を組織化。
- ・花による緑化推進協定を利用して活動開始。
- ・草花だけではなく、宿根草やグラス類を植えることでローメンテナンスの花壇を実現。

○区民花壇植え付けイベントの開催内容

- ・交流拠点施設オープン日（11月3日）に40名程度募集し、区民花壇に花の植え付けをしてもらう。
- ・主催団体、指導者、アシスタントの確保が必要。

委員からの主な意見及び提案に対する事務局からの回答、要望・意見交換から出た課題は以下の通り。

1. 意見及び提案

- ・少数のプランターであれば水やりを毎日やる必要はない。
- ・小規模区民花壇のため、ローメンテナンス設計をすることで管理しやすくなる。
- ・区民団体及び区民が長く参加可能な具体的な施策を実施した方が良い。
- ・区役所の敷地内にどこまで当事者意識をもってもらえるか不安要素がある。
- ・過去のワークショップ参加者が日常管理の運営者候補とならないのか。

(回答) 過去のワークショップで実施したアンケートでは花壇の日常管理の参加意向までは確認していないが、今後もワークショップに参加したいという意見は多く寄せられた。

- ・町会自治会への声掛けは行っているのか。

(回答) 花壇の日常管理について、現状町会への声掛けは行っていない。別施設で屋上庭園が保育園の散歩場所になっていた事例があるため、そのような層も巻き込めると町会の協力も得られやすくなる。

2. 要望

- ・区民が屋上花壇に植えた草花の情報を分かりやすく掲示することで、活動の広報につながるとともに、花壇の状況を把握しやすくなる。

3. 意見交換で出た課題

- ・区民花壇の今後の担い手確保の在り方。
- ・本庁舎職員による日常管理への参画の可能性。
- ・イベント終了後の管理開始時期が不明確。

(4) 審議による決定事項

1. オープニングイベント企画

- ・世田谷落ち葉ひろいりレーは11月下旬の開催を検討。
- ・「せたがや生きもの会議」と連携したみどり関連事業紹介ブース展示を検討。
- ・グリーンアップサイクル・プランター設置に係る渋谷区の取り組みを視察予定。
- ・みどり政策課と世田谷トラストまちづくりによるブース出展及びボランティア募集。

2. 11月3日区民花壇植え付けイベント開催を検討（ワークショップ参加者への声掛け含む）。

3. ワークショップ参加者・みどり団体・区職員による多様な担い手確保を確保すること。

4. ローメンテナンス可能な区民花壇設計の推進。

5. 屋上庭園を保育園の散歩コースとしてPRし、継続的な日常管理への参加促進。

6. 屋上庭園の植樹については、設計コンセプトを踏まえ当初計画どおりとする意見があり継続検討とする。植え付け時期は3期工事中までを目途に今後調整し、あわせて区役所外構周辺のみどりの利活用についても検討する。

6

区民利用・交流拠点の目指すもの
(屋上庭園 / オフラインイベント)

市民・団体・地域・区が

小さな実践とする



活動や課題を可視化



外部に共有



集まった人が自然に

市民活動に接続する工夫



活動のスタートアップ
にジャンプ。

普段
市民活動の
から外に
いざい

実践の場!